

【所属名：文化振興課】

【会議名： 第2回糸魚川市文化財保護審議会】

会 議 録

作成日 平成30年1月29日

日	平成30年1月26日	時間	13:35 ~ 15:40	場所	糸魚川市民図書館 視聴覚室
件名	報告(1) 「能生白山神社の海上信仰資料」の現状について (公開) 報告(2) 新潟県の近代和風建築の調査について (公開) 報告(3) 「根知の糸魚川-静岡構造線露頭」の整備について (公開) 報告(4) 親しらず整備基本計画の策定について (公開) 報告(5) 埋蔵文化財の調査について (公開) 報告(6) 文化財関係施設の入館状況について (公開) 報告(7) 文化財防火デー関連事業について (公開) 報告(8) 文化財解説板等の修繕について (公開) 報告(9) その他 (白山神社本殿の屋根のき損状況について) (公開) 議題(1) 刀 (越後糸魚川北辰子弘繁作) の指定解除について (公開)				
出席者	【出席者】 7人 吉田会長、井伊副会長、五十嵐委員、室川委員、小掠委員、池亀委員、佐藤委員 【欠席者】 3人 野紫木委員、小川委員、吉倉委員 【事務局】 5人 田原教育長 文化振興課 磯野課長 木島補佐 山岸学芸専門員 高津主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	人

会議要旨

1 開会 (13:35)

【事務局】 田原教育長あいさつ

一昨年の大火以降、水害、雪害等糸魚川市は災害が多いと感じている。本日は文化財防火デーだが、文化財をそういった災害から守り次代へ受け継いでいく活動は、たいへん重要なことと考えている。本日も皆様から活発なご意見、適切なお指導をよろしくお願ひしたい。

2 報告

(1) 「能生白山神社の海上信仰資料」の現状について

【事務局】 資料No.1 について説明。

【委員】 (現地確認の結果) 3者から (参考) 見積もり届いたが、3者とも金額がマチマチ。
今後とも文化振興課のご支援をお願いしたい。

【委員】 カビが生きているかどうかの見方が業者によって違うとの説明だったが、それが重要なのではないか。

【事務局】1者は「カビは生きていて、今後も他の資料にまで及ぶ可能性がある」と言い、もう1者は「カビは今生えたものか断定できないが、生きているカビの可能性もあるため、それに対応した処置が必要」と言い、もう1者は、「現在のカビは今発生したものとは言い難く、アクティブなものではないと思われる」と言っており、3者とも意見が異なる。カビが生きているかは厳密には菌の培養が必要らしいが、専門的な内容なので、文化庁の指示を待ちたい。

(2) 新潟県の近代和風建築の調査について

【事務局】資料No.2について説明。

【委員】伊藤家は今人は住んでいるのか。管理面においてどうか。

【事務局】住んでいる。ただ屋敷がとても広いため、すべての部分に管理が行き届かないのが現状。

【委員】近代和風建築調査とはどんな調査か。

【事務局】新潟県では調査が遅れていると言われている。明治以降の近代化した頃の和風建築を残したいという趣旨で平成27・28年度にかけて実施された調査。当市では御風宅と伊藤家が挙がっている。

【委員】この物件は指定になるということか。

【事務局】まだ具体的な話でないので何とも言えない。

【委員】伊藤家のご当主は、指定についてどう考えておられるか。

【事務局】実際に居住されているので公開の仕方など心配はあるが、基本的に指定には前向きな考えでおられる。

(3) 「根知の糸魚川-静岡構造線露頭」の整備について

【事務局】資料No.3について説明。

【出席者】質疑なし

(4) 親しらず整備基本計画の策定について

【事務局】資料No.4について説明。

【委員】中長期計画は10年という長い期間を想定しているようだが、この後どう整備するか。

【事務局】波打ち際復原等壮大な計画もあったが、将来的な整備として設定している。他の機関との調整や地形的な問題の解決には時間がかかる。波打ち際の体験（が今できないのでそ）の代替案として、ドローン撮影を考えている。

(5) 埋蔵文化財の調査について

【事務局】資料No.5について説明。

【委員】前回の委員会で話に上がっていた山口番所の上屋の話はどうなったか。

【事務局】8・11月の2回、県文化行政課の埋蔵文化財調査員が現地確認。6月には文化庁の浅野調査官に保存について指導を受けた。その際、文献などがあまり残っていない場所でもあり、遺構が見つかるかが非常に重要とのことであったが、あまり明確なものが出なかった。関川や境川の関所もあまりはっきりした遺構が出ず、何度も建て替えているところは遺構の発見が難しいようだ。上屋は高さなどがはっきりしないと復原できない上、現地は雪も多く管理面はどうかといったところ。

【委員】市指定の関所跡との関係は。

【事務局】絵図には毘沙門堂と毘沙門岩の記載あり。それが関所の一部ということで市の指定となっている。姫川で大水が出た時などに、村境とするために昔からここにこの岩があった

ようだ。

(6) 文化財関係施設の入館状況について

【事務局】資料No.6 について説明。

【委員】考古館の独自のイベントなどは実施しているか。

【事務局】長者ヶ原友の会のメンバーがジオパーク友の会のメンバーとかぶっていて、どちらかというジオパークの活動が忙しい。そのため、現在は休日の遺跡公園のガイドもままならない状況。友の会の会員の意欲向上のため、先進地視察を行ったり、土器焼き、勾玉作り体験の指導を手伝っていただいたりをしている。平成30年度には考古館で企画展を行うため、現在予算要求中。

【委員】遺跡公園の利用状況は。クラフトフェアではずいぶん賑わっているようだが、そのほかの利用はどうなっているか。

【事務局】土器・勾玉作りには遺跡公園の体験学習広場の東屋を利用している。体験学習広場全体を使うイベントはなかなかない。クラフトフェアでは2日間で2万人を動員しているとのことだが、車の乗り入れのため、遺跡公園が傷むなどの事案があり、管理者として苦慮する面もある。いずれにしても、なるべく使ってもらえるよう運営していきたい。

【委員】遺跡公園はイノシシの被害がすごくて、ちょっと1人での見学が怖い気がするが、そういった問合せなどあるか。

【事務局】今のところそういった苦情は出ていない。昨年度は穴がありすぎてトラクターによる草刈もできず管理上の問題はある。ワナも仕掛けているが、効果はあがっていない。

【委員】子ども向けジオパークカレッジのメニューとして組み込んでいけばよいのでは。

【事務局】復元住居での体験宿泊など大いに使ってもらいたい。

【委員】能生歴史民俗資料館はどうなっているか。

【事務局】収蔵している民具の痛みがひどい。今後の対策についてご指導いただきたい。

【五十嵐委員】屋根の状態は。

【事務局】かなり状態が悪いが、葺き替えには3,000万円かかるとのこと。

【委員】大火復興の際、御風宅へ行くような動線を考えてもらえばいい。

【委員】資料の数字にはささゆり市民茶会の入場者は入っているか。

【事務局】入っている。7月の入館者にはこんぴらさんの無料開放の入館者も入っている。

【事務局】大火の寄付御礼として招待券をお送りしているが、その券による入館者もボチボチある。

(7) 文化財防火デー関連事業について

【事務局】資料No.7 について説明。

【出席者】質疑なし

(8) 文化財解説板等の修繕について

【事務局】資料No.8 について説明。

【委員】龍光寺の解説板、絵図など新しい情報が入っていて勉強になる。今までのものよりいいものをつけていただいた。

(9) その他（白山神社本殿の屋根き損状況について）

【事務局】資料について説明。

【委員】平成17年に屋根を葺き替えたと聞いたが。

【事務局】本殿の裏手で、岩が落下して穴が空いたため全面葺き替えを行ったと聞いている。その

際、柿葺きを修理できる業者が近隣におらず、業者を探すのに苦労したと聞いている。

【委員】今回も全部葺き替えになるか。

【事務局】3月に文化庁の調査官に現地を見てもらう予定。その時の調査官の判断による。

(休憩) 14:53~15:03

3 議題

(1) 刀(越後糸魚川北辰子弘繁作)の指定解除について

【事務局】資料No.9について説明。

【委員】前回の委員会でも言ったが、この刀が指定されていたことを、跡に残してほしい。美術刀剣としてはもちろん指定解除となるが、銘はきちんと残っているし、こういう刀剣があったことを残すという意味で、何かもったいない気がする。

【事務局】所有者は市へ預けたいと言っている。市はこれを歴史民俗資料館で預かる予定のため、形としては資料館に残る。大火の記憶として、資料館で活用したい。

【委員】ほかにも3振(刀剣)あることを踏まえ、解除やむなし。

【委員】私も解除はやむをえないと思う。

【委員】美しい形を保つという意味では解除やむなしと考える。ただし、あったことを残すということをしてほしい。

【吉田会長】審議会としては解除。但し委員の意見を受け、保存・展示について、市は考えること。

【委員】資料に示されている指定番号と『糸魚川市の文化財』に掲載の番号があっていない。どちらが正しいか。

(指定書の写し、文化財台帳確認)

【事務局】57号が正しい。

【委員】「糸」の字は。

【事務局】「絲」が正しい。

【吉田会長】それでは答申文案中「糸」の字を指定書に合わせて「絲」と修正する。

4 閉会(15:40)

